

【随筆】

タンチョウは子別れ、 そして繁殖期へ

住吉 尚
(釧路支部)

2月24日月曜日のことです。前日は雨、そしてこの日は強風が吹くものの晴天でした。雪が溶けてきて、グンと春めいてきたこの日、面白い光景を浜中町で見ました。タンチョウ家族の写真を見てください。タンチョウが3羽写っています。右端の鳥は昨年生まれの幼鳥です。真ん中は雄の成鳥で、左端の鳥が雌の成鳥です。雌は翼を少し広げていますが、これは雄に交尾を促す姿勢です。雄はここには映っていないもう1羽の幼鳥を追い払ったところで、その気になってはいそうな姿勢ですが、私が見ている間には交尾は見られませんでした。実はここに写っているタンチョウの家族は幼鳥2羽を連れた4羽の家族です。1羽の幼鳥は雄に激しく攻撃されて、この3羽からは離れた場所にいます。ちょうど子別れ、そして今年の繁殖行動が同時に進行している場面です。それにしても1羽は激しく追われているのに、この写真に写っている1羽のはほほんとして親鳥の近くにいますよね。私と思うに写真に写っている幼鳥は雌ではないか？そして激しく追われている方は雄だろうと思いました。雌の子供はどこかの雄とつがいになり、遠く離れた場所で新しい繁殖テリトリーを作るでしょう。でも雄はつがいができるのと、この親の繁殖テリトリーのすぐ近くで新しい繁殖テリトリーを作ることになるので、雄親は雄の子供を自分の繁殖テリトリーの外に追い出す必要があります。これは親が自分の繁殖テリトリーから一年中離れないので、自分の繁殖テリトリーの中で子別れをしなければならないために起きてくる現象です。冬期間給餌場などに移動している家族では、ヒナが雄であれ雌であれ、「もう私たちについてくるんじゃないよ！」と突き放してから親鳥は自分の繁殖テリトリーに帰っていきます。でもここは親鳥の繁殖テリトリーの中ですから少し様子が違うのでしょうか。タンチョウのヒナは5月頃に生まれ、8月には飛べるようになります。ここまで来ると親がヒナにしてやることはほとんどありません。秋にはどこに行き、冬はどこで過ごすか？を覚えるだけです。でも一年中繁殖テリトリーの中で暮らす家族は、親から教えら



タンチョウの親子

れることは多くはありません。そしてヒナは親べったりで他の鳥との交流が少ないと言う特徴もあります。そのため、親はより攻撃的な子別れをする必要があるようです。そしてもう一つ、雌が雄に向かって交尾を誘っていますよね。産卵まではまだまだ時間があります。でも産卵をし、1カ月もの間抱卵します。これが無精卵ならただ無駄にエネルギーを使うことになります。それで、できるだけ有精卵の確率を上げるため、この時期から交尾をするようです。それでもタンチョウは他の野鳥に比べると、無精卵を産む確率が極端に高いと言う特徴があります。これは釧路のタンチョウでは近親交配による弊害が出ているということで、大陸のタンチョウにはない特徴です。有精卵が出るペアはほぼ毎年有精卵が出ますから、このペアは今年もうまく繁殖するのでしょうね。

3月に入って新型コロナウイルスで大変な騒ぎになり始めましたね。そして知事から土日の外出の自粛要請が出ました。これに従ったと言うわけではありませんが、土日は家にいました。そして月曜日には天候が回復したということもあり出かけました。前日の雪のせいで道路は一部アイスバーン状態でした。上尾幌分岐に向かって坂を下って行くと事故車両の撤去作業をしていました。その横をすり抜け、カーブに差し掛かるとシカ柵の向こうにシカの死体を食べている動物が！黒いのでキツネではありません。足が長いのでタヌキでもありません。耳が垂れています。エー！毛の短い中型犬です。がつつとシカの生肉をむさぼり食べているのが見えました。最近野犬を見ることは大変珍しく、オー！と思いましたが、後続車が4～5台あって、カーブで、アイスバーンで、となると停車することはできません。やむなく横目で見ただけで通り過ぎましたが、写真の1枚でも撮りたかったなー！と言うのが正直な気持ちでした。釧路に動物園

ができたのは昭和50年ですが、その頃は街に野良犬がうろつき、山には野犬の群れが普通に見られました。最近では野良犬でも見ることは珍しいですね。動物園の開園当初は外周柵をしばしば点検をして警戒していましたが、野犬の群れが侵入してエゾシカ群れが全滅すると言う被害が出たこともありました。そんなことももう遠い遠い昔になってしまいました。今では街をうろつくのは野良犬ではなくキツネですね。でも野良猫の方は今でもあまり変わらないようですね。この野良猫の増加を抑えているのは街をうろつくキツネだ！という報告を見たことがあります。出歩くようになった子猫をキツネが獲って食べるのだそうですよ。

釧路では積雪は少ないのですが、積もった雪は硬くシカでも掘るのは大変なようです。とは言え札幌や旭川のように春先になって堅雪になっても、どこでも歩けるようにはなりません。中途半端に硬い雪は雪がある限り、歩き回るのはひどく障害になります。そして雪が溶けると今度は落ち葉の下は地面が凍っているの、斜面は滑って歩きにくいこと請け合いです。そのため、早春の道東では林の中には入らないことです。そして春が近づいてくるほど釧路では雪が降ることが多くなります。こうして雪が少しでも降ると庭に野鳥が集まります。3月2日日曜日には今年初ですがアトリが群れで飛来しました。雄雌で色が少し違うのですが、同じ雄でも頭がほとんど黒い個体からかなり薄い個体までいろいろです。私は勝手に色が濃いのは成鳥で、色が薄いのは昨年生まれかな？と思っていますが本当でしょうか？シメはアトリを目の敵にしている、見つけると追い回しています。同じヒマワリを食べるせいでしょうか？でもアトリが群れで現れると、さすがのシメもたじたじと言うことでしょうか？おとなしくしていました。シメもツグミも1羽ず



庭に現れたアトリ

つで現れます。でもいつもいますから、同じ個体なのでしょう。釣りにも行きたいのですが、私の都合と天候がうまく合わずなかなか行きません。やっと先日行った時は氷が厚く50 cmぐらいい掘ったのですが、水面に届かずへこたれてしまいました。氷上釣りシーズンの後半はこの厚い氷との闘いになります。誰かが前日に開けた穴でもあればと、周辺をうろうろして、できるだけ新しく氷に穴を開けなくても済む方法を考えるのですが、いつも都合よくそんな穴がある訳でもないですね。でもこうして体力を使うことで夜はぐっすり眠れますし、氷の上にはコロナウイルスもいないでしょうから、外出の自粛にも影響されなくて、良い方法だと思います。世界中が大騒ぎの中ですが皆さんはどうお過ごしですか。

コロナウイルス騒ぎで開催を心配をしていた北獣理事会在が1週間延びたので、列車とホテルの変更手続きをしたところ、「変更手数料をいただきます」とのこと。手続きを終えて、家に着くと同時に駅から電話があり、「コロナウイルスでの変更には手数料を取らないようにと通達がありました」とか。数日して手数料を返してもらいましたが、さらに数日して事務局長から電話があり、「理事会在は中止になった」と。またまた駅まで行き手続きです。こんな中です。大雪に注意とのニュースが流れ、5日は朝から何度も除雪をしましたが、夕方にはダウン。しかし吹雪はそれからが本番でした。でも体力は限界、猛吹雪には勝てないので、後は明日どうなっているかと投げ出してしまいました。そして翌日の6日は午前中かけて何とか車を動かせるだけには除雪しましたが、我が家の前の道路に除雪車が入ったのは午後3時近くになってからでした。60 cmもの積雪ですから除雪車が入らなければ道路は走れません。でもこの時間になっても除雪車が入らなかった地区も多かったとか。道路が通れるようになったので、職場に様子を見に行く車が何台も出ていきました。日本人はまじめなのですね。

7日、土曜日は一日中ダウン、疲れ果て、筋肉痛、がっくりでした。翌日の8日は大雪の影響を見たくなり出かけました。除雪が充分ではない住宅街に比べると、国道は大変きれいに除雪され走行に全く問題はありません。深山（ふかやまと読み、地名です。）に差し掛かると、シカ柵の向こう側に柵に沿って何頭ものシカが見えました。この先上尾幌分岐あたりまでをルークシュポールと言う地名なのを知っていましたか？まるでピレネーかアルプスにある峠の名前のような響きで、私もこの名を知ってから大好きになりました。坂を下って犬がシカを食べていたのはこのあたりだったと見ながら行くと、道

路の下に軽トラックが雪に埋もれているのが見えました。吹雪の中の走行には十分な注意を。厚岸を過ぎ、糸魚沢に近づく道路脇に沢山のワシが。シカ柵の道路側にシカの死体があり、沢山のカラスとワシが死体を突いていました。この後次々とシカ柵の外側と内側に4頭もの死体を見ました。最後の個体は雪に埋もれてシカ柵に頭を預け、眠るような表情に見えましたが、雪の中で力尽きたのでしょうか？この死体にはまだカラスもワシも気づいてはいなかったようです。ここからは20頭ほどのシカの群れがシカ柵に行く手を遮られ、どうしようかと言う表情で立ち止まっているのが2群見られました。どちらも大きな個体を先頭に雪を漕いで来たようで、群れはシカ柵に直角に並んで立ち止まっていました。歩き疲れていたのでしょうかね。シカの腹より深い雪を漕いででの行進は大変な体力が要るので、大きな個体の後を一行に繋がって歩いている様子が見えました。どちらの群れも国道を超えて南側へ行きかけたようです。もしかしたら、まだ20 kmも歩いて海岸まで行くつもりかもしれないと思いました。猛吹雪は林の中では積雪量が多いのに対して、吹きさらしの湿原や海岸の草原では雪が吹き飛ばされてあまり積もらないので、そんな場所まで行こうとしていたのでしょうか。湿原へ出るとやはり積雪は少なく、せいぜい10 cmほどののでしょうか、雪の中から草を食べているシカの群れを見ました。この日は海岸の崖上の草原にもちらほらシカの群れを見ましたが、釧路から東の海岸はどこも高い断崖絶壁です。足を踏み外すと命がありません。こんなシカでしょうか、岬の断崖の下の波打ち際にも1頭のシカの死体を見てしまいました。



崖下のシカの死体

猛吹雪での釧路市内の積雪62 cmは幻の観測史上最高記録だったとか。でも気温が高かったこともあり、日曜日にはシラルトロ湖などは氷が溶けて開水面が大きくなっていて、ここに沢山のヒシクイが飛来していました。



シラルトロ湖のヒシクイ

もう冬鳥たちは南から北へ帰り始めているようです。我が家の庭には除雪車が置いて行った雪が2 m近くにもなっていたので、妻はここに大きな雪だるまを作っていました。これが完成するまでにハクチョウが34羽もきれいなV字編隊を組んで東へと飛んで行ったよ！と。そして間もなくです。今度は40羽以上の群れが同じ方向に飛んで行ったとか。私も庭に出て空を見上げましたが、そんなに次々、とはならないのは分かっていますが、つい空を見上げてしまいます。ハクチョウは大きな鳥ですし、必ずと言ってよいほど鳴きながら飛びます。コー、コー、コーと、どこからか聞こえてきたら空を見上げてください。意外と低く飛んできますよ。これから4月末まで、ほとんどが東へと飛んでいくでしょう。厚岸湖や風蓮湖に集まり、大きな集団になって多くはオホーツク海沿いに北上しサハリンへと渡っていきます。風蓮湖から一部は国後へと飛ぶ集団を見たことがありますが、ここからカムチャッカへと行くのでしょうか？あるいはほかの集団と合流すべく知床を超えて稚内、サハリンへと行くのでしょうか？